

発行所
真宗大谷派 光善寺
発行人 太田高顕
茨木市島2丁目3-16
電話 072(632)7107

<http://www.eonet.ne.jp/~kouzenzi>

いぶき

2021年6月1日発行

今月の言葉

亡き人と思うとき
あたたかいのは
あなたを思う心が
今も生きているから

川村妙慶

府下で最古の光善寺本堂

真宗寺院で

茨木市文化財資料集（寺院編）が発刊されました。市教育委員会が文化財保護審議会委員の東野良平氏を中心に、市内全寺院を調査した報告書です。それによると、光善寺の本堂の建立は寛永一四年（一六三七）で、府下の真宗寺院で最古であること。また、建立当初の遺構がよく残っている貴重な文化財であると記されています。寺を預かる一人として、大変うれしく思っています。



光善寺本堂（資料集より）

こんにちゅうらい
建立以来三八〇年余り、本堂を良好な状態で維持できたのは、ひとえに二門徒の寺を愛する篤き思いとたゆまぬ努力あつてのことです。今後も、聞法と出会いの場として、護持に努めたいと願っています。

蓮如上人との出会い

光善寺の歴史は、蓮如上人の教化に始まったといわれます。上人は越前・吉崎を離れ、近畿一円を教化するため、河内・出口の草坊（後の光善寺）に移られます。蓮如さんが出口の人々に親しく交わったことを伝えるものが、石だんご。蓮如さんの腰掛けた石にちなんで名づけられたといわれます。



石だんご（上）と各種の木型（下）どちらも遠州屋にて

蓮如さんは、船で淀川の対岸である島の坊舎（島・光善寺）に再々お越しになりました。ここ島でも、同じだんご（石と呼ばれた）が最近まで作られていたのです。筆者も、だんごのヨモギの香りをなつかしく思い出します。

人々の蓮如さんを慕う気持ちは、庶民的な食べ物として伝わったのです。今ではだんごを作る家庭はないそうです。京阪・光善寺駅近くの遠州屋では今も作られています。

「遠州屋」電話072・832・5038

大道と小路

▽コロナウイルスは、世界中に深刻な影響を与えています。ワクチンの接種が進み、一日も早い終息が願われます。

▽仏教が説く縁起とは、特別のことではなく、ものごとは縁によって起こりたがいにつながっているという道理をいいます。その意味で、コロナウイルスとのあいし避けがたいものかもしれません。

▽真宗の教えは、念仏して浄土の世界に生まれましょうというものです。親鸞聖人は、念仏を「悪を転じて徳を成す正智」と説き示されます。▽我われ凡夫の生き方は、都合のよいものには執着し、そうでないものは捨てる狭いものです。念仏することは、仏の広大な世界を知ることでもあります。それによって、自分の生き方が自己中心の狭いもので、他の人に通じないものだと気づかされたとすれば、念仏はその人に大きな徳をあたえたことになるでしょう。仏の智慧である念仏は、自分を見せてくれる鏡ともいわれたい